

審査の結果の要旨

氏名 塚田 亜弥子

本論文は、韓国の大学における留学生受入の量的拡大と質向上の両立に向けた誘致・選考・教育・支援体制構築の取組を明らかにすることを目的とするものである。留学生受入の急激な量的拡大は、留学生活不適応、中途退学、不法滞在等を引き起こし、韓国では大学国際化に伴う大きな課題となっている。本論文では、(1)量的拡大と質確保を巡ってどのような政策が展開されてきたのか、(2)どのような大学が留学生受入の質を保ちつつ留学生数を増やすことができているのか、(3)それらの大学ではどのように留学生の誘致・選考・教育・支援を行っているのか、という3つの研究課題を設定した。

序章では韓国における留学生受入の研究動向を整理し、第1章「韓国における留学生政策」では政策の変遷と関連予算を分析した。第2章「韓国における留学生受入の拡大・縮小」では留学生数の経年変化と現状を分析し、第3章「韓国における留学生受入の質」では留学生受入の質に関するデータの経年変化を示した。第4章「韓国における留学生受入の量と質の変化」では留学生受入に係る量と質に関するデータの経年変化を分析した。第2～4章の分析結果から、留学生受入の類型として、(1)量重視型、(2)量優先・質低迷型、(3)量・質両立型、(4)質優先型、(5)量・質低迷型の5つを示した。

第5章「留学生受入の質向上と大学の誘致・選考・教育・支援」では機関レベルの留学生誘致・選考・教育・支援の現状を分析した。第6章「事例研究」では、各類型で優れた実践が見られる大学を取り上げ、各大学の留学生誘致と選考、留学生教育、留学生支援の実態を明らかにした。考察の結果、留学生受入の量と質の両立に向けた取組に違いをもたらす要因は大学の留学生受入の動機やポリシーであることを指摘した。これが前提となった上で、所在地、設置主体、規模、リクルート力、選抜性、組織、予算といった要因により、留学生募集力が影響を受ける可能性を提示した。

以上より、設定した課題に関し、次の点を明らかにした。(1)韓国の留学生受入政策はあくまで量的拡大を前提とするものであり、質の問題への対処は量的拡大を維持する観点から取り組まれていた。(2)留学生受入の質を保ちつつ留学生数の増加を実現している大学には、量・質両立型と量重視型の2つの類型が見られた。(3)留学生受入の誘致、選考、教育、支援は、大学の留学生受入の動機やポリシーによって方向づけられる。大学の留学生募集力の高低によって誘致と選考方法が定まり、そうして受入れた留学生の水準と規模に対し、見合った教育と支援を提供することが留学生受入の量と質の両立の実現に必要とされる。

研究結果から示唆される点として以下を指摘した。(1)留学生受入の質向上策として質保証制度を採用することは有効だが、予算による裏付の必要と指標の一律適用による弊害に留意する必要がある。(2)誘致について留学斡旋会社の活用に細心の注意が求められる。(3)入学時の語学レベル条件と受入プログラムの組合せについて、語学レベルの引下げにより誘致対象を広げる場合は語学教育の充実が必須である。(4)支援体制整備と予算の関係について支援体制を整備する予算確保が受入の質向上に直結するため、限られた予算を有効活用する必要がある。本論文では、大学自身が留学生受入の方針を教育目的と関連付けて明確化し、留学生のレベルと人数に応じた教育・支援体制を整備できるよう、主体的に意思決定と予算措置が行える仕組みの重要性を指摘した点が評価された。よって、本論文は博士(教育学)の学位を授与するにふさわしい水準にあるものと判断された。